

離婚女性の応援誌

HAND IN HAND

はんど・いん・はんど

【教科書と家族観】

■もう10年以上も前のことですが、私の知人は子どもの担任のところへ抗議に行ったと言います。それは、家庭科のテストで「洗濯はいつするか」の答に、彼女の子どもが「夜」と答えたのが×になったから。「私はずっと働き続けてましたから、洗濯はいつも夜していたのです。平日の日中に洗濯をするものなんて決めつけるなんて、家庭の現実を先生方は無視しています」

■今、我が国の世帯は夫婦と子どもの世帯が34.2%、夫婦のみの世帯が17.4%、単身者の世帯は25.6%です。さらに、共働きの家庭が専業主婦のいる家庭を上回っています。つまり多様な家族の形、家庭があるのです。ところが我が国の税制度や社会保障制度は、夫が働き妻が家にいる家庭を基本としていて、それ以外の家族のあり方や生き方を選ぶと不利なことが甚だ多いのが現実です。たとえば、配偶者控除や年金の被3号保険者などもそうです。

■教科書もいまだに「伝統的家族像」を理想としているらしく、来春から使われる予定の高校家庭科教科書3冊が検定不合格となりました。取り寄せて見てみると、男女共同参画社会に向けて、男女の対等なパートナーシップや別姓、離婚のこと、世界の環境問題まで取りあげた、大変意欲的で面白いもの。私は家庭科なんて嫌いだったんですが、こんなに社会性があるものなら楽しいなと思ったほど。

■高校の教科書に検定が必要なのかということも含め、また男女共修となった高校の家庭科を面白く教えることのできる教師の育成問題のことなど、たかが家庭科の教科書問題といわず、今後の家族のあり方、家族を取りまく制度や法についても十分議論されるべきではないかと思います。現実の多様化している家族を肯定せずに、理想(?)だけ追っても、子どもたちもついてはいかないでしょう。(円より子)

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取りあい、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは生きやすい社会をめざし、支えあう女たちの流木である。



第176号 600円 禁無断転載

【発行日】1997年9月1日

【発行所】現代家族問題研究所

【連絡先】〒150 東京都渋谷区
神宮前6-34-3-201

TEL & FAX 03-5512-2738

【発行・編集人】円 より子

【スタッフ】向井通江 星野美子

【印刷】(株)日出島

女性が一人で生きるために

吉武輝子氏（作家）

第197回ニコニコ離婚講座（97年6月15日）より

今年には憲法施行50周年というところで、敗戦を迎えたのは私が14歳の時でした。

敗戦を迎えて、新しい憲法ができ、民法ができ、今まで簡単に「男ってこうだ、女ってこういうものだ」と思って生きてきたけれど、あまり男女の性の本質とは関係なく、その時代の国の理想とする男像、女像を演じさせられ、それをあたかも性の本質と思わされていたんだなあと。今はジェンダーと言っていますが、それを体で感じて、今までとは違った新しい生き方ができるんだと胸を踊らせて、敗戦後の様々な公的な変化、システムの変化を受け入れて生きていた最中のことだったのです。性的暴力にさらされたのは。当時、日本は全て基地化され、進駐軍の暴力万歳というムードの中で、レイプ事件が多発していました。私の敗戦の新しい第一歩は、6人の兵士の集団レイプから始まったのです。

その頃、女の幸せは結婚だと一本に絞られていて、特に家制度下でその家を継ぐ男の子は確実にその男の子だということを立証するために、処女膜、その一枚がないということだけで女性失格、傷物と言われていた時代の女であったわけですから、自分は結婚する資格を、男を愛する資格を失ったと思ひ、そんな中で何度も自殺未遂を繰り返しました。

その頃まだ戦争という時代を生きていて、ストレスが強く14歳でも初潮を迎えていませんでした。私は血塗れになって帰った時、今の人だったら告発をすると思うけれど、その頃の私は恥ずべきことで、隠したいと、特に母親だけに言うまいと思ったんです。当時の母親は、どんなに個人的に能力、才能、人格が優れていても、自分の力で自分を表現して生きていくことが許されなかった女達が多く、子どもを通して、例えば男の子は

立身出世、娘だったら年頃になっていい所へ結婚した、それであまよく育てましたねと言われた時に、少し認められたと思う。そういう母は、私を哀れがって抱いてはくれるかもしれないけれど、やはりどこかで十分に自分を生ききらなかった女の人の、同性に対する冷酷さの方があって、どこかで私を疎んじるだろうと思ったのです。出血をして帰ったとき、母は私が初潮を迎えたと思ひ、私の人生で一番辛い時に、なけなしのお米や小豆でお赤飯を炊いてくれました。18歳で初潮を迎えたときに、自分が奪われたものは肉体の一部ではなくて、よりよく生きたいという意志が奪われたんだということに気づいたんです。戦前だって女の人は初潮を迎えたときに大人になって、結婚してどういう人生を生きたいとか、いろんな夢を抱いた。私は夢を抱くということを奪われたということは、より良く生きたいという意志を奪われたんだと気づきました。

その頃、母方の祖父母の家へ泊まりに行った時、祖父母の寝室は別になっているんですが、祖父がちりんちりんとかベルを鳴らすと、母が祖父の寝室に行くんです。昔は夫と妻の関係は主従だったわけですから、祖父は立身出世の成功者で、それを立証するために妾宅をいくつかつくるとか、芸者遊びをするとか、そんな中で性病を妻に移したり。お風呂に一緒に入ったとき偶然見た祖母の女性器は紫色に腫れ上がっていました。昼間バカにされたり、殴られたりする怖いと思っている男に、夜だけ体を開くなんてできない。けれど家を継ぐ子どもを産まなければ妻の座を追われてしまう。ですから彼女たちにとっては性というのは「お勤め」と称していた。いわゆるコミュニケーションの手段ではなくて、お勤め。祖母が私にしみじみ言ったのは、「夜が怖かった」。

私はその時初めて、夫と妻は法的関係であったとしても、内在する性には暴力が、強制が介入するんだとそこで気づいたわけです。レイプというのは露骨に暴力が出ただけであって、やはり男と女の関係が平らでないと、本当にいい性の関係というのは持てないんだってということがわかりました。私は憲法や法律で許されている男女平等を全部実行して、男の人と同

▶吉武輝子氏



じ土俵を作って、いい性の始まりを持ちたいと、大学に行ったり、働いたり、いろいろな暴力をなくす運動に参加したりしました。

●若い時の選択は誤りがつきもの
私たちは大体20代でいろいろなことを選択してしまいます。20代という人生の戸口に立ったばかりで、人生を洞察する力もなく、何かを選択するということの見極めなどできがたい立場にいるときに、結婚相手を選んだり、男の人は職場を選んだり。人生長くなると、若いときの選択は過ち、誤りがつきものなんだということに気づきます。若いとき選択した、その時には正しかったかも知れないけれど、人間は良くも悪くも変わっていく

ものです。ですからああ選択を間違えたなと思ったときに修正する、自由を持ちながら生きるということ、そこからやっぱり私たちはスタートしていかなければならないっていうことが、今になってわかってきたんです。

●夫との出会い

大学では、私は演劇部に入りました。稽古場に連れて行かれると、立ち稽古が始まっていたのですが、主役の女子学生がいなくて、男子学生が身代わりでやっていたんです。ですから私は一発で主役に。それまで一回も演劇をやったことがないのに、一発で主役をやり、一発で新人賞をもらい、一発で文学座からスカウトが来しました。岸田今日子さんと同期です。

その演劇部の演出をしてくれた男性が今の夫です。彼の通っていた暁星中学校は、早くから軍隊の将校が教練の教官として来て、何人海軍兵学校に送り込むか、何人陸士に送り込むかを誇りにしていた。夫は自分は絶対人を殺す方に回りたいっていうことで、ノーと言って殴られ、殴られ。教練の点が無かったので、どこの大学も受けられなくて、たった一つ受け

られたのが慶應の畜産科だったんです。畜産科から仏文科に行ったという変な人なんですけれどもね。その話を聞いたときに私は、これだけ暴力を否定する男だったら、一緒にになった後も、強制や暴力が介入するという関係にはならないだろうと思ったのです。

夫は自分の父親が母親に足袋を履かせてもらっている姿を見て育った人間ですから、体質化しているのは主従の夫と妻の関係なんです。けれども敗戦を迎えて、自分の親のような生き方をしてはならない。憲法24条の中で、家族生活における個人の尊厳と男女の本質的平等を保障すると明記されている。この24条を実生活の中で実現したいという夢があって、共働きでスタートして平らな関係がある程度まで持つことができたのです。ところが男の人は、女と違って、社会の中枢に入っていく。そうすると国の価値観で、人を管理する側に回ってくる。夫は幸か不幸か創立者のグループに入っていたから、トントン拍子で出世してしまっただけ。共働きの自由と男は働いて女は家にいるということであつて、来てきた男の既得権と両方ほしい

という、やっかいな存在になってきたわけです。私が42歳、夫が46歳。この辺で女の問題が出て来るっていうのは、大体先が見えてきて、元へ戻れないという思いをせめて若い女を通して再現したいっていう思い。夫にも若い女性が出て来てしまったのです。最終的には話し合って、彼女は富山に帰りましたが。

●夫婦は名前は別、人格も別

もともと私は夫婦別姓選択制をとうろつと言っていて、婚氏統制法を作って、離婚したときにどちらの名前を名乗ってもいいというように、夫婦別姓法にする第一歩として出口の方を先に作ったんです。結婚するときに夫に相談したら、「名前なんて記号なんだよ」と言うので、「どっちの名前つけたっていいじゃないの。記号だったら美意識でいく。宮子輝子より、吉武輝子の方がずっといい」と。けれど夫は記号だなんて思っていない。人格、能力、才能を表していると思ってるのです。32歳で娘が生まれたときに、夫がこれから子どもを籍に入れるに行くというので、私がよろしくと判を渡したら、婚姻届に宮子輝子と入っていた。私は

吉武輝子で入院して、宮子輝子で出てきたわけです。

この間私は、狭心症で、心臓や脳に酸素が行かなくなり、緊急入院しICUに入りました。意識朦朧で、ドクターとナースが「宮子さん、宮子さん」と言っても全然反応しない。娘が「吉武輝子さん」と言ったら、「はい」と答えたそうです。ですから私には別姓法というのには命に関わる問題なんです。

家には宮子勝治と吉武輝子と二つの表札が出ていて、出ていく度に、帰ってくる度に、夫と妻であっても名前は別、人格別と確認しながら家を出たり入ったりしています。そういう形で何とか続けてきていますが、人というのはなかなか恨みがとれないんです。どこかで凝っている、氷結しちゃっているものがあって、同じ働いていても夫がやってくれたらありがたい、妻がやれば当たり前、元々恨み辛みが溜まるようなものがあるところに、若い方に乗り換えられつつある。この恨み辛みがなかなか取れない。今や私の所は同じ屋根の下に住みながら、上と下別暮らしという形を、20年ぐらいたったと取ってきています。つまり家

庭内離婚。これはこれで、どんな年を重ねていくようになったらこの関係がむしろ快適になってきている部分もあるんです。

●人は老いて死んでいく存在

夫のことは「お二階さん」と呼んでいます。夫は真夜中起きていて、昼間寝ている、私は昼間の仕事があるから、これだけリズムが違うと、無理して一緒にの寝室に言って言っていたら、どちらかが我慢しなければならぬ。私は60過ぎたら、それぞれシングルを基本にした夫と妻の関係を作ってほしいと思っています。

夫が癌になったんですが、見舞いに行くと、妻をやったんです。手術が終わって、廊下で話ができるというときに、初めて二人で何年振りかで向き合って話したときの照れくささ。驚いたのは長い間まともに顔を見ていなかったで、頭の中に焼き付いていたのは壮年期の夫だったんです。そうしたら癌の手術が終わって、対峙したその夫は、老いと人生の疲れのにじみ出てきた初老の男だったわけです。その時「人ってというのは、老いて死んでいく存在なんだなあ」と思って。夫も久方ぶりで私と顔を

合わせ、照れくさそうにしていますが、瞳の中に哀憫の情みたいなものが浮かんだんです。ですから夫の頭にも壮年期の私が焼き付いていて、私は私なりにもう66歳になって、初老になっていた。彼は彼なりに私に対して、老いて死すべき存在なんだなって思いを、ふっと思っただかと思えます。

それから私は、人間ていうのは老いて死すべき存在だから、強い者同士の門戸のあり方ではなく、老いて死すべき存在としての門戸のあり方という形で、つき合っていました。皆さんは一人になった怖いとか、家族に看取られて死にたいと思っていらいしやるのかも知れませんが、私はこの4、5年何回か死にそうになったりして、強く思うようになったのですが、どんなに素敵な夫が側にいてくれても、どんなにかわいい子どもが側にいてくれても、この私の体を襲っている激痛とか死ぬことの苦しみとか恐怖とか、誰も代わってくれない。非常に孤独な存在。それはわたしだけじゃない。あなたたちもそうなんです。夫もそう。だとすれば夫だけではなく、誰に

対してもその孤独感を深めるような、そういう存在だけにはなりたくないなという思いがどんどんしてきて、そういう存在としての孤独感をどんどん深めていく人間が、男であれ、女であれ、一緒に暮らせたらいいなと、今私は複合家族を作っています。夫との中に他人の女の人、或いは男の人を入れて複合家族を作っているわけです。他人が入っているから、夫との関係も不睦にならずにすんでいます。

私達は、夫がいようと、子どもがいようと、いつかはシングルに戻る立場にあります。ですからこれからは、いかにして個々がシングルとして生きるという道を作っていくのか、また最初の話に戻ると若いときの選択は間違いが付きものです。間違いに気がついたら軌道修正をする、そして男と女が、夫と妻が単なる役割としてお互いを見合うのではなく、老いて死すべき存在、人間観のあるおつきあいというものをどう作っていくか、真剣に考えていく必要があるのだと思います。こんなところから、もう一度新しい人生を考えて頂けたらと思います。

「土井良多江子さんを送る会 コンサート付講演会開催」

横浜市で20数年婦人相談員を勤められた、土井良多江子さんが3月に定年を迎えられました。約1万件、5千人の相談に応じ、横浜市民間のシャルターを作ったり、多くの女性を支えて来られました。

土井良さんは、ニコニコ離婚講座が1988年10月に100回を迎えたのを記念し、「離婚制度および社会への要望と提言」を行政、家裁などに提出した際、この要望と提言をより早く実現できるよう89年1月より、円より子や金住弁護士が中心となって開いた離婚制度研究会のメンバーであり、以後ハンドでもお世話になっている方です。(92年2月には同研究会で法制

審議会民法部会へ、「離婚制度改革への提言」を提出しました)

6月28日(土)には、横浜のながわ労働プラザで、土井良さんを送る会が開かれました。これは横浜市の福祉事務所で働く後輩の方達によって、コンサート付講演会という形で行われました。会は癒しの効果のあるライヤー(竖琴の一種)の演奏で始まり、性教育の専門家らが「性をめぐる相談と教育―エロスのゆらぎ」と題して、土井良さんの司会で語り合いました。「女性問題はイコール男性問題。男女が一緒になって性のあり方を語りたい」と土井良さん。

土井良さんは今後も横浜市女性協会で相談員を勤められます。土井良さん長い間お疲れ様でした。そして今後も宜しく願います。



Q

私は夫の両親との折り合いが悪く、1歳の子どもを連れて実家に帰りました。その後、夫側との話し合いでしばらく別居することになり、その間子どもを1週間ずつ夫側と私の方で交代に引き取っていました。ところが、夫はしばらくして子どもを返してくれなくなり、それ以来子どもに会わせてくれません。子どもを連れ戻すにはどうしたらいいでしょうか。ここに至っては離婚しかないと思うのですが、子どもの親権を取って引き取れるのでしょうか。手続はどうすればいいでしょうか。

A

婚姻継続中は、夫婦が共同して親権を行うのが原則であり、どちらかに優先権があるわけではありません。子どもの養育についても夫婦は対等な権利義務があり、他方の権利を奪うことはできません。あなたが子どもに会うことは当然の権利です。ですが、相手が拒否している場合は、なかなか困難なことが多いのが現実です。

一般的な手続としては、家庭裁判所に対して、親権の帰属が決まるまでの間の「子どもの監護者の指定と引渡」を求める仮の措置を申し立

て、家裁の調査官の面接調査などを経て、審判の結果を待つことになります。この場合、家裁は、親の気持ちだけでなく、子どもがどちらで養育されるのが幸せかという、子どもの福祉を第一に考えます。一般的には、それまでの養育の実情や子どもの生活の継続性が非常に重視されます。

ですから、あなたのように、子どもが既に相手方の元でそれなりに安定した生活を継続して送っている場合は、特に子どもの成長にふさわしくない環境や、子どもに害が及んでいるといった事情がなければ、なかなかあなたが子どもの監護者になって引渡を求めるのは難しいと思います。同じことは、今後の離婚の話し合いや調停、裁判等で親権の帰属を決めるときにも言えます。それまでの子どもの生活状態を基本的には変えないことが、子どもの安定のためにいいと考えるのが通常です。ですから、特に子どもの福祉を害する状況がない場合は、あなたが親権と引渡を求めることは難しいでしょう。

弁護士 110番

弁護士 段林 和江
06-1364-10269

'97年ハンド夏合宿報告

恒例のハンド夏合宿を国立婦人教育会館（埼玉県）で行いました。

参加者は大人15名、幼児12名、スタッフ5名と、いつもより少なかったのですが、前泊し、朝の3時まで語り合って参加した人も5名いたほどで、幼い子どもを持つ若い母親同士、初めて参加した人もすぐに打ち解けていきました。

初日は、午後2時から円より子を囲んで研修会。自己紹介の前に、ブラインドゲームを。これは二人1組になり、一人が目隠しをして、もう一人の人が介助して20分程研修棟の周りを連れて歩き、戻ってきたら交替してまた20分歩くという、介助する側、される側を体験するロールプレイです。

手を引かれていても、怖くて壁を必死に伝いながら歩く人、信頼して身を任せて歩き、池まで行って水に触っている人とまちまち。感想を聞いてみると、「目が見えないと頭を使わざるを得ない。神経もピリピリした」「足音や物音、風や匂いが違って聞こえた」と普段と感覚の違いを感じた人。「段差などの伝え方が上手で、安心して相

手に任せて歩けた」人もいれば「いつ曲がり角や階段があるのか怖くて、びくびくしていた」人も。介助も「初めてでどうしていいかわからなかった」人、「連れていく方が責任重大で緊張した」人。

「現代人は五感を使っていないので、衰えている。そして子どもが小さいときはスキンシップするけれど、中学生くらいになると触り合って感動を伝え合うことをしなくなる。五感を働かせて行動すること、言葉を使わずにボディランゲージで伝えることの難しさを実感できたのでは。また、介助の人に触れている面積が広くて安心できる人、逆に触れられたくない人、介助するときアバウトな人、逆

にちゃんと連れて行かなくちゃと緊張する人と、性格の再発見ができたのでは。安心して相手に身を任せられる人、石橋をたたいて渡る人。このゲームは自分を知るためにも、人との関係を知るためにも役立つと思います」と円。

続いて自己紹介を兼ね、今関心のあることを一人一人話しました。別居中の人、裁判中の人、既に離婚した人と状況は様々ですが、やはり別れた父親と子どもとの面接交渉や関わり、養育費について、離婚を子どもにどう伝えるかの悩みが多く出されました。

夜は円と翌日の講師原田恵理子さんを囲んで懇親会。お母さん達が、尽きない思いを話している側で、子ども達はテレビを見たり、兄弟のように遊んだり。

二日目は「家庭内暴力」について。原田さんは東京都婦人相談センターの相談員を10年間なさっていて、立教大学大学院にも在学中。また、「ドメスティック・バイオレンス（夫・恋人からの暴力）」について、93年に日本で初めて全国アンケート調査をした研究会のメンバーでもあります。

「夫・恋人からの暴力」は95年の



北京会議でも大きな問題として取り上げられ、欧米では70年代半ばから、社会的な問題として法律や施策の改正、暴力から逃れて来る女性のためのシェルターが整備されました。しかし日本では、単なる「夫婦喧嘩」として片づけられ、また「殴られるのは悪いことをしたからだ」と受けとめられがちで、実態が隠されてきました。

最近になってマスコミに取り上げられるようになり、相談できずに悩む女性が少なくないことが知られるようになってきました。

まずそのアンケートの調査用紙を回答しました。原田さんから、調査の結果では、回答者の8割は何かの暴力を経験し、そのうち4割以上の女性が身体的、心理的、性的暴力を全て受けていたこと、日

本では「暴力」の範囲が狭く、殴る蹴るだけが暴力だと考えられていると説明があり、その後皆で回答した感想を話しました。

身体的な暴力を受けていた人も多く、「生活費を送らない」や「無視された」ことも暴力だったなんてと言う声も。また離婚して3年経っても、7年経っても自分が暴力を受けたことを平静には話せない、忘れていたいという人も。

午後は、原田さんがまず、「パワーとコントロールの車輪」という図を使って、男性は①社会的孤立、②心理的・言葉の暴力、③経済的暴力、④性的暴力、⑤子どもを利用した暴力、⑥強要・脅し、⑦男の特権を振りかざす、⑧極小化・否認・責任転嫁と8種類の非身体的暴力を使って女性を支配しよう



とし、それを強化するために身体的暴力を使うと説明。5つ該当した人が4人、7つが2人、8つ該当した人もいて、原田さんに紐解いて頂きながら、改めて、自分たちは暴力を狭い範囲でとらえていたこと、そして自分もいろいろな形の暴力を受けていたんだと感じさせられました。

続いて相談機関について伺いました。「欧米で問題が注目されるようになったのは、女性達が自分たちの経験を語り始めたことがきっかけ。暴力をなくしていくためにも、実態を明らかにして社会の認識を変えていかないと難しい。また、両親揃っているのが当たり前という考えが変わっていかないと、暴力を受けても我慢するしかないようになってしまう。ハンドの活動はそういう意識を変えるためにも大切な活動です。警察や福祉の対応も今後の課題」と原田さんは最後に締めくくられました。

※原田さんが「夫・恋人からの暴力」についてインタビューにご協力頂ける方を募集しています。ご連絡下さい。お待ちしております。

大阪ハンド夏合宿報告

今年の夏は異常です。雨ばかり、台風ばかりでもうんざり。まるであの頃の私のように。けれどジメジメとグレーな日々はもうさよならとばかり、8月15日、16日の大阪ハンドの夏合宿は超元気にスタートしました。

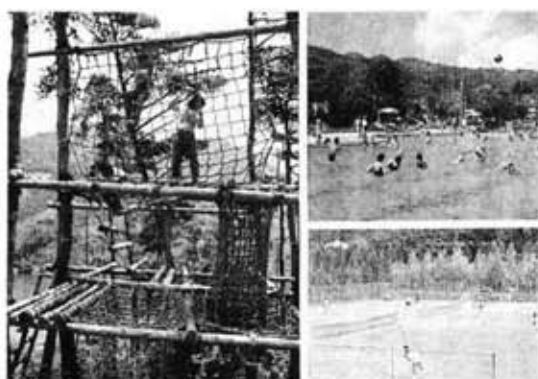
場所は丹波篠山にあるユニットピア篠山。ユニットピアとは労働組合のユニオンと理想郷のユートピアの合成語とのこと。プール、植物園、アスレチック、釣り堀、テニス場などの施設が林の中にあります。普段とことんがんばっているんですから、リラクセスして、リフレッシュ。

15日にはちょうどサマーカーニバルで、様々な屋台やショーが夏の一夜を盛り上げてくれました。クライマックスの花火を見ながら、あの一瞬の花火でさえ夜空をあでやかに彩るのだから、これからも続く長い人生、輝かすにはいられないわ！ナンテ思ったのは、私だけかしら？

そして深夜の一室にて女たちが大集合、夜のミーティングが始ま

ります。それぞれ顔も年代も異なるけれども、不思議不思議のハンドのこと、重い話題で激論あり、爆笑あり。「調停ってどんな感じなの？」「子連れ再婚って難しいの？」etc. 高知の人は激白を通して現実を直視し、遠い過去となった人は自らの軌跡を改めて整理し、皆明日への活力をキープすることができたのではないのでしょうか。

（大阪ハンド・





第111回 愛媛 Nさん

〔家族構成〕

私 40歳（一般事務）

長男 12歳（中学1年）

〔住居〕

賃貸マンション（3DK）

★

2度の離婚の経験者です。長男が2歳10ヶ月の時、1年間行方不明だった夫と連絡がとれ、感謝料、養育費の月払いを公正証書で取り決め離婚しました。が、夫に再婚相手との間に子どもが生まれた月から支払いがなくなりました。

長男が5歳の時に再婚しましたが、どうしてもないマザコンに我慢できず、1年8ヶ月後に私の方から離婚を切り出しました。相手ともめることもなく、すんなりと離婚が成立しました（父親ができて喜んでいて長男にはかなりショックを与えてしまい、しばらくチック症状が出ました）。

今の職場に勤務して13年になります。出産、離婚、再婚までは全員に知られていますが、2度目の

離婚はごく一部の人にしか話していません。いろいろと人間関係で悩み、切れそうになりますが、なんとか定年まで勤めたいと思っています。

終身保険、個人年金、学資保険すべて年払いでボーナスで支払っています。児童扶養手当は1ヶ月41,390円ですが受給者所得オーバーで13,700円カットされています。去年ぐらいから全額貯金できるようになりました。資産と呼べるものはありませんが自分の給料で生活できる幸せを感じています。

自分の意志で市立の中学に進学しないで国立中学の受験をすることを決め、見事合格した息子を頼もしく思っていますが、思春期に入り接し方が難しくなりました。神戸の事件に関する問題を見ていると他人ごととは思えません。息子の性格形成に今までの生活が影響している部分を発見したとき、やりきれない思いで一杯になります。

学校には医者、弁護士、会社社長の父兄が多く、親の職業を聞いてくる女の子に「父親はいない」と答えたら「小さい頃はいたんですよ」とか、「その時はどんな職業だ

ったの」とか、しつこく聞かれて嫌だったそうです。「父親がいらない」ということは、僕の中では解決されているから……」と言う長男ですが、時々叫ぶように言います。「僕の家がみんなと違うことは父親がいらないことだ！」

母親と男の子では成長してくると、どうしても会話が減ってきます。我が家では小学入学を機にボーイスカウトに入りました。同時に、私もリーダーとして参加し、6年が過ぎました。親子の会話は「スカウト活動」という共通の時間のおかげで、しっかりと持たれています。異年齢の子とも達との関

わりは一人っ子の息子にはとても楽しい世界ようです。私もいろいろと勉強になることが多く、そして、たくさんの素敵な人たちと出会えたことは、私の財産になりました。ハンドの仲間同様、大切にしていきたいと思っています。

これからは『子どもを育てる』というのではなく『子どもと共に成長して生きていく』段階に入りました。私から離れて行くまでのこれからの数年間、体を張って（？）大いにケンカして、納得のゆくまで話し合って『愉快な母子家庭生活』を送りたいと思っています。

家計簿内訳 (1997年6月分)

〔収 入〕	
給与（手取り）	253,500円
児童扶養手当	27,690円
計	281,190円
〔支 出〕	
家賃	53,000円
食費	38,105円
外食費	7,578円
水道光熱費	9,589円
被服費	6,000円
理容衛生費	12,727円
交際費	13,485円
交通・通信費	15,643円
教育費	34,950円
（校納金・塾・パソコン・ボーイスカウト）	
教養娯楽費	8,375円
自動車税・市県民税（1期）	15,700円
預金	65,290円
その他雑費	748円
計	281,190円

ハンド・イン・ハンドは、みなさんがつくる雑誌です。

みなさんの日常考えていることや、生活の匂いが伝わってくるような、そんなハンド・イン・ハンドでありたいと思います。お便りをどんどんお寄せください。

■自分を奮い立たせています

さん(千葉・33歳)

175号の群馬のY・Tさんの手紙を読んで、切実な辛さを自分のことのように感じています。

2月から別居状態になり、2歳の息子の親権をめぐって調停中です。4回目の調停で、裁判をしてでも渡さないと言い出したので、次回で不成立に終わります。

夫とは見合い結婚でしたが、夫側が遺伝性の難病の家系なのを隠していたことと、義母の狂信的な新興宗教によって精神的に苦痛な辛い日々を送りました。夫婦仲もぎくしゃくしてきた頃、突然夫が実家ぐるみで当時1歳10か月の息子を取り込んでしまい、調停中に面会をさせる約束をしたにもかかわらず、未だに一度も子どもと会わせてもらえない状態にあります。

夫の実家は事業を営んでいて早く後継がほしいと言われ、私も子どもがほしかったので、一人目は産みましたが、二人目以降は病気を知った以上、2分の1の確率で

発病するかもしれない子どもを産むには責任が重く、言葉を選んで拒否する態度を示してきました。

「産まないなら結婚した意味がない」「約束違反だ」と妻を子どもを産む道具のような差別的なことを言い、病気を隠され結婚させられた私の立場と気持ちはどうなるのかと憤りを感じます。

これから裁判で闘うことになりましたが、子どもの成長が見れない現状が気がかりで、悲しく、仮処分をとって、会わせてもらえるようにしたいと必死になっています。もう半年近くになり子どもはまだ小さいので、母である私の顔を忘れてしまいかも知れません。しかし、自信を持って毎日を生かすようにと地域の女性センターへ足を運んで情報を集めたり、見聞を広めたりと自分を奮い立たせています。

■調停はとんでもない世界です

K・S (東京・?歳)

175号に載せて頂いた東京のK・Sです。その後、6月と7月に調停がありました。

6月の調停の際、子どもは私の所へということになりました。しかし、健康保険の扶養、所得税の扶養控除は父に残したままというのが夫の要求でした。健康保険は保険証がないのでは不便だということでも私にいうことになりました。

だが、所得税の方は彼でいいのではないかと調査官に圧力を掛けられ、抵抗するのが大変でした。養育費も請求額の根拠として、支出明細を出すように言われました。

7月の調停では夫の要求する面接交渉の回数が子どもに負担が大きすぎると拒否したところ、それでは話がかかると調停委員に脅されました。審判に回して下さいと言っても、審判などできないと高飛車に言われました。養育費について、先に所得証明を取ってほしいと言ったところ、支出明細を使うことにしたとまた高飛車に言われました。理由を説明してほしいと言ったところ、そう決めたの一点張り。それでは支出明細が出せませんと言った話し合いが決着しないとまた脅し。仕方がないので弁護士を頼むと言ったところ、頼むなら頼みなさいと調停委員が怒鳴り散らしました。先生方のおっしゃること

は理不尽なことが多いのでそうしますと言いつつ切ったところ、調査官が顔色を変えて裁判官に相談して、ということになりました。

調停は、怒鳴る、脅すのとてもない世界です。東京は比較的同時と弁護士がおっしゃっていたのですが、この有り様でした。

■調停委員に納得できません

H・S (福島・37歳)

3月末より別居、現在調停をしています。夫は医師で、月収が手取りで100万円あるのに、養育費として7歳と2歳の娘に10万円しか出せないと言っています。私も働けば収入が入るのだからと言いますが、私がどんなに働いてもせいぜい月収20万円位だと思っています。調停委員も2人で10万円なら世間の相場より大分いいから…と同意しろと言わんばかりです。

養育費は、夫の収入の多少に関係なく、世間一般の相場で決まるものなのではないでしょうか。質素と言われそうですが、納得できません。

■意見が伺えたらと思います

Y・O (福島・40歳)

5月で結婚15年目に入りました。「離婚したい」という気持ちは、初めからあったような気がします。

離婚したい、でも子どもは？ 実家の両親は？ 私が我慢すればいいんだ、でも離婚したい。その繰り返し14年間でした。

私は夫、夫の両親、夫の祖父、小6の娘と小3の息子の7人暮らしです。具体的に離婚を考えるようになったのは2年前からです。姑は口が達者で、思ったことは言わないと気が済まないという人で、どんなに言葉で傷つけられてきたか知りません。人生観、価値観が違いくらいで、私が言葉を返すと、その度に「我が強い、我儘だ。どこそこの嫁はおとなしい」と言われるので、この人に言ってもしょうがないと思うようになり、今では必要なことしか言いません。

共働きでしたが、夫は家事や育児を何一つ手伝ってくれませんでした。姑も口は出しますが、とにかく動くことの嫌いな人で、食事の用意も面倒だからやらない。この家の人は協力的とか助け合おうとか知らないのだろうか？ ということも思ってきました。それにこの家について肩の力を抜く、のんびりする空間がないんです。

味方になってくれるでもなく、ただ聞いてくれるだけ。初めのうちは優しくいい人と思っていたけど、優柔不断で、自分の考えを持っていないから黙って聞いているだけなの？ と思えてなりません。経済的には、ずっと社員として勤めてきて、養育費をもらえなくても児童扶養手当等を足せば何とかやっていけます。ただ、子ども達の将来は？ 子ども達の性格が離婚によってどう変わってしまうのか心配です。また、実家の両親にも、周りの人からいろいろ言われたり、迷惑を掛けるのではと思うと涙が出てきて止まりません。哲さんはどんな風に気持ちの整理をして離婚を止めたのか。或いはどうやって離婚に踏み切ったのか、意見が伺えたらと思います。

■これから頑張ります

(広島・?歳)

離婚して3年経ちました。小学6年の娘と二人暮らしです。4月に中古のマンションを購入し、やっと少し落ち着いて、老後に備えることができるかなと思えるようになったこの頃です。

フルタイムで働いていて、子どもの学校も変わらず、養育費もき

ちんと入っていて運のいい方だと思います。本籍をマンションの住所に変えることで、やっと吹っ切れた感じがしています。これからいろいろなことがあると思いますが、頑張っていきたい。

■長い間ありがとうございました

(神奈川・49歳)

入会して早や15年。初めの頃は横浜の会の皆さんと交流があったのですが、子ども達の成長と共に、自分なりの生活を築いていき、いつの間にか会報を読むだけの会員になり、今日に至りました。

3月に下の子も無事高校を卒業し、児童扶養手当も終了しました。長男(大学2年)の学費、長女(専門学校2年間)の学費の支払いはまだまだ続きますが、お互いにアルバイトをしながら頑張っています。私も49歳。定年までもう少し頑張らなければと思っています。

長い間元気づけて頂き感謝しています。そろそろハンドを卒業します。ありがとうございました。

お電話・お便り下さい

■電子メールでの交信を希望

S・I (大阪・41歳)

別居後1年4か月が経ちました。

現在フリーランスで翻訳業務に携わっていますが、安定した収入が得られず悩んでいます。去年の夏は、母子家庭につけ込まれて詐欺に引っかかり、トライアルと称する原稿用紙300枚を上回る英和翻訳を無報酬で手がけました。秋から慎重に翻訳会社を選び、徐々に仕事の量を増やしました。大きな仕事もこなすようになってきたので、何とか翻訳者としてやっていけそうな手応えを味わっていましたが、7月に入り仕事が途絶えてしまい途方に暮れています。

翻訳を続けるべきか、固定給の得られる仕事に転向すべきか、どこに相談すればいいのかわかりません。同様な経験をお持ちの方、翻訳業を営んでいる方と連絡が取ればと思っています。

現在中2と小6の子どもと実家で暮らしているので生活には困らないのですが、同居している母が、私の仕事の受注先を始め、友人関係、子ども達の学校関係者など全てに首を突っ込むとうします。今も親から娘時代と同じように扱われることに耐え難い苦痛を感じます。これまでの自立の妨けとなってきた要因は、自分の育った家庭で培

われたものではないかとさえ思われるこの頃です。

パソコン通信できる方、電子メールでやり取りをお願いします。

※池田さんと交信を希望される方は事務所向井までご連絡下さい。

■離婚関係の本を差し上げます

M・F (兵庫・?歳)

今年の5月に、別居3年を目前にして離婚しました。調停も不成立のまま、膠着状態が続き、辛い3年間でしたが、これ以上時間を費やしても無駄と自分自身を納得させ、判を押す決心をしました。

5年別居で離婚が認められるという民法改正の法案さえなければ、離婚に応じるつもりはなかったのですが、夫はあと2年で裁判を起こすと言っており、5年も待ったあげくに破綻主義を取られては仕方がなく応じたという感じでした。

3年間本当に悩み、考えましたが、今はすっきりしています。購入した離婚関係の本が、20冊程ありますので、差し上げたいと思います。ご連絡お待ちしております。

☎ ■お便りお待ちしております

S・E (愛知・30歳)

別居して8か月、1歳半の子と

もと実家で暮らしています。夫から一方的に離婚を言われたので、自責の念でいっぱいだったり、気持ちの整理がつかず悩んでいます。

同じ様な境遇の方、また現在は離婚している方で決断を余儀なくされた方、いろいろアドバイスして頂けたらと思います。

※S・Eさんへの手紙は表記事務所向井まで。転送します。

■お友達になつて下さい

(大阪・?歳)

離婚して半年、実家に食費の援助を受けながら、小4の息子と5歳の娘と3人で暮らしています。

同じ年頃の子どもを持つて離婚され、今は子どもを成人させた方、子どもへの離婚後の接し方、離婚の影響などを聞かせて下さい。

また、何の資格もない専業主婦のまま離婚され、その後仕事で成功され、子どもを育て上げられた方、仕事や資格についてのアドバイスは是非聞かせて下さい。

子どものこと、私たち自身のこと、いろいろなことを気軽に話せるお友達になつて下さる方、お手紙お待ちしております。

世話係より

■大成功!!「円より子講演会」

(福島・42歳)

去る7月19日(土)に郡山市総合福祉センターで、円より子さんの講演会が、郡山市母子福祉センター利用者の会「いいであい」の主催で行われました。当日会場には20代から60代の男女約130名が集まり、熱心に円さんの講演に耳を傾けました。

講演会終了後、会場を移し、ハンド福島支部を円さんを囲んで開きました。私はかねてより円ファンでしたので隣の席に座ることができて、とても嬉しかったです。私たち女性の、とくに母子家庭

の母親の代弁者として円さんのますますのご活躍を心からお祈りいたします。円さんありがとうございました。またお会いしましょう!!

■エニアグラムワークショップのお知らせ (大阪・?歳)

11月22日(土)にドーンセンターで、和泉育子氏(オフィス・ミズ代表)のエニアグラムのワークショップが行われます。詳細は大阪世話係までお問い合わせを。

☎

★会報に掲載したいお便りは、偶数月5日までに表記の事務所より子宛にお送り下さい。匿名希望の方は明記して下さい。

「家計簿公開」原稿も大募集!

《お世話係》

- ★仙台
- ★福島
- ★北陸
- ★埼玉
- ★群馬
- ★愛知
- ★滋賀
- ★大阪
- ★大阪
- ★神戸
- ★岡山
- ★広島
- ★香川
- ★四国
- ★福岡
- ★福岡
- ★熊本
- ★大分
- ★宮崎



第195・196回 ニコニコ離婚講座

▼10月17日(金) 午後6時半〜8時半、麹町の円より子宅で。テーマは「子どもの心と関わり」。参加費1000円(夕食付)。事務所橋本までお申し込み下さい。

大阪のニコニコ離婚講座

〔9月〕9月6日(土) 午後1時半〜4時半、ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)で。竹川幸子弁護士(離婚に関する法律)。

〔10月〕10月20日(月) 午後1時半〜4時半、ドーンセンターで。

〔11月〕11月1日(土) 午後1時半〜4時半、ドーンセンターで。

いずれも参加費1500円

★大阪の例会

9月27日(土) 午後1時半〜4時半 竹川幸子法律事務所で。

☎06-393-1331

★竹川幸子法律事務所

★大阪バザー例会

11月8日(土) のドーンフェスティバルのバザーに今年も出店を予定しています。ご協力お願いいたします。問い合わせはTEL/FAX

まで。

★埼玉の会合

▼9月22日(月)、23日(火)と茨城県大津村の世話係の別荘で

▼9月27日(土) 午後6時〜9時、東京ウイメンズプラザ第1B会議室で開催。

のんびり過ごしませんか。22日午後7時頃 毛集合。23日は茨城の方も一緒に楽しみましょう。

▼11月2日(日) 宅でハンド177号発送。都合のつく方お手伝いをお願いします。

いずれも詳細は まで。

☆離婚一〇番

日時、番号をよく確認して下さい。

〔電話番号〕

☎03(3261) 1835

☎03(3261) 1836

〔日時〕

▼第1、第3、第5土曜日の午後5時〜8時▼第2、第4土曜日の午後2時〜5時

★購読料について

次の3通りの方法があります。

①1年間3600円(送料共)

②2年間まとめて前払いの場合、7200円を6000円に。

③出社払いもしくは免除

どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出て下さい。

期限切れの通知の入った時に、お振りこみ下さい。

(振込先) 各地の郵便局にて

00140061120542

ハンド・イン・ハンドの会

★予告
来年の3月でニコニコ離婚講座が200回を迎えます。これを記念して3月28日(土)、29日(日)にシンポジウムを開催します。

多彩な講師をお招きしての講演やパネルディスカッション、二日目にはハンドの全国集会を開きます。詳細を次号に掲載しますので、皆さん奮ってご参加下さい。

■事務局便り■
★夏休みは久々に仕事から離れ、のんびり家族と過ごしました。中三になる息子とは、けっこうマジメな話をしたりして。「へえー、けっこう考えてるんだ」なんて、妙に感心したり、ジーンとしてたりでした。(橋本)

★中3の娘がこの6月から、初めて塾に通い始めました。面白くてしょうがないらしく、夏休みも毎日通って、私はおかげで一緒に遊びに行けず、毎朝早く起きて朝食づくり。そして仕事。ついに夏バテと過労でダウン。なのに娘は元気一杯。茶髪にマニキュア、イヤリングで遊び目一杯。若さには負ける。(円)